2019年(令和元年)

第142号

(10月1日)

# 平安月報

The HEIAN monthly report

発 行 所:立正佼成会 京都教会

発行責任者:涉外部長 田中規之 編集委員長:涉外広報 植田恭司 〒605-0041 京都市東山区三条東町230

TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

### 脇祖さま報恩会 ~記念団参で大聖堂式典に参加、教会では独自式典も~



写真は佼成デジタルより抜粋

脇祖さま報恩会が祥月命日にあたる9月10日、大 聖堂をはじめ各教会で行われ、記念団参で大聖堂での 式典に参加しました。京都教会では独自の内容で式典 を行い、組長15名による奉献の儀、『慈悲の歩み』を 読ませて頂く中での13名の気づき発表がありました。

その大聖堂には約3200人の会員が参集。式典では庭野会長先生が法話を述べられました。

法話の中で「四弘誓願」についてふれ、その中の「衆生無辺誓願度」は「身近な人に奉仕(布施)しよう」つまり、教えを説いて人を導くことや道路にあるゴミを拾うことも奉仕だと解説、「仏道無上誓願成」は「永遠の道を一歩一歩ゆっくりと歩もう」つまり、仏道というのはキリがなく長い道であると解説。これは仏教徒の誓願であると述べられました。

また、脇祖さまの思い出として、開祖さまの家族は、脇祖さまのご神示によって疎開したこと、足かけ 10年、新潟県十日町市の田舎に疎開し、昭和 29年に東京に戻ったことを述懐。生前、脇祖さまから「欲しいものはないか?」と聞かれ、剣道をやっていたため「日本刀が欲しい」と伝えると、脇差の刀を買って頂いた

ことなどを振り返りました。

脇祖さまが昭和32年9月10日に67歳でご遷化され、それが護り刀になったと。当時、名前が浩一だったので「こうちゃん、こうちゃん」と言われたことを思い出され、幼いころの脇祖さまは、優しいおばあちゃんの思い出だが、帰省した時には高校生になっていたので、厳しいおばあちゃんの思い出があり、優しさと厳しさ、両方の印象があると述懐されました。

脇祖さまは病気の問屋と言われるほど、様々なご苦労をされた方で、人様に対する慈悲の心が強い方だったと述べられました。

今年は脇祖さま生誕 130 年。世の中にはたくさんのことで悩んでいる方がいらっしゃるので、四弘誓願にあったように、人様が「苦しみが無くなり、本当に楽になり、救われた」と言って頂ける人が一人でも多くなるよう、私たちも開祖さま、脇祖さまに続いて布教の誓願をさせて頂きたいと述べると共に、六波羅蜜の最初に「布施」があることを解説。

これは「思いやり」とも言え、私たちは「布施」と 聞くと、お金を思いだすが、お導きをすることも、親 切にすることも布施にあたると述べ、布施の心を忘れ ずに精進させて頂きたいと促されました。

「脇祖さまご生誕 130 年記念展示」が、4月21日から12月25日まで、大聖堂3 階ホールで行われています。開祖さまに導かれて法華経に出遇い、ご法の証明役として教えを実践され「慈母」と慕われた脇祖さま。その姿は今も私たち会員の手本となっています。今回の記念展示では、脇祖さまの人生と信仰を紹介する写真や文章を掲示し、普段は目に触れることのない脇祖さまゆかりの品々を公開しています。

を他に て付 ではない 宮が創 時のに る 社 奉仕 ます。 方にと 、京都全市域からなる代祭です▼時代紹合れた創始された。 ਰ੍ਰ は や5花街 寄 す せ 【を担当-とり 力 財布 建される はご苦 お ま 明 施 まと す 治が が説 ま  $\mathcal{O}$ 労 め各 T ; ます。 を学行れ す を はは 京に 5 て こうな祭たのた。平都 よる行の熱そ安の 平都よれ し区列 か 物 1 寄けて をれ各よ 仏め C つ 7  $\mathcal{O}$ 

## 今月のことば ~「仏」を供養する~ 乙訓支部 壮年部長 外園恵三

「今月のことば」を担当させて頂きます、乙訓支部、 支部壮年部長の外園恵三です。今月の会長先生ご法話 は「仏」を供養するです。

前半のなぜ「仏」がたくさんいるのかでは、法華経の中で「三百万億」や「八千億」の仏と出てきますが、 釈尊のように悟った方や亡くなった方だけではなく、 日々に出会う一人ひとりを、仏と受け止めると見方が 変わってくると教えて頂いています。

また、後半の「供養」の基本は思いやりでは、まず出会う人はみなすべて仏と信じ、受け止めること。そして目の前の人に「恭敬・尊重・讃嘆」の気持ちを示し、供養を行う。供養の方法として一番大切なのは、教えを実践することだとし、私たちは思いやりあふれる人間になるにつれて、「仏」に近づくと教えて頂いています。

さて、私はこれを拝読させて頂き、日ごろの自分に 照らし合わせてみると、自転車で逆行する奴!駐輪場 にちゃんと止められない奴!指示器を出さずに廻って 来る奴!電車に割り込み乗車する奴!電車から降りた らすぐ歩きスマホの奴!職場で挨拶もろくに出来ない 奴!協調しない奴!ミスばかりする奴!文句を言って からする奴!何かと上から目線の奴!

スーパーの売り場の前で長話しするおばちゃん(失礼!ご婦人!)支払い時に小銭を弄る奴!メールをなかなか返信しない奴!友達申請をしてもシカトする奴!自治会の事を市役所に直接相談する奴!何かと意見

・文句ばかり言ってくる奴!等々。あ~考えてみれば まだまだ「奴」がどんどん湧き出てまいります。

そこで会長先生のご法話に照らし合わせて一寸見方を変えてみますと、先の「奴」に遭遇する状態の私はすべて「自分は急いでいるのに!」「自分は正しいことをしているのに!」「自分の日常を邪魔しやがって!」

自分はOO!と自己を主張し、自己中心的な自分になっている事に気づかせて貰います。目の前の「奴」を自分を悟りに至らしめてくれる「仏」に見方を変えてみると、必然的に対応も変わって来ます。

さらに会長先生は、その「仏」に「供養」を行うのもむしろ当たり前のとこだとおっしゃって頂いています。慈悲の心で日々をおくり、人を思いやる。つまり自分を主張する前に相手の事に思いを馳せ、相手がその行為を行うには必然性が有ることを知る。するとこちらにも余裕が出来て、主張する気持ちから譲る気持ち、人を思いやる気持ちへと変わって参ります。

私の母(八九歳)は昨年から、グループホームにお 世話になって居ります。今までの環境とは違い、食事 もホームの方々と一緒ですし、諸行事もホームの方々 と共に参加しなければなりません。お風呂やトイレ等 も施設の方にお世話にならなくてはなりません。自分 の我儘が罷り通る環境では有りません。その中で施設 の方からは、お宅のお母さんはいつもみんなに何かと 「ありがとう」を言って下さいますね。と言って頂い ています。私も行けば「ありがとう」をしつこいくら いに言ってくれます。全てに感謝の姿勢で示してくれ ています。

昨今、テレビ等で「あおり運転」などの悪質ドライバーが連日報道されていますが、これも自分の運転を 邪魔する人!の延長線上にある「自己中心的思考」の 行動ではないでしょうか。

目の前に存在する「相手」を「仏」と見て、思いやりの心で、母のようにいつも「ありがとう」の気持ちと言葉を忘れず、接してまいりたいと思います。「我以外皆我師」とのくだりも頂いております。

今回の投稿の機会を与えて頂き、誠にありがとうございました。 合掌

### 第63回かめおかこころ塾 ~プロテストソングで合唱~

かめおか宗教懇話会(会長:宝積玄承 臨済宗妙心寺派東光寺先住職)は9月14日、第63回かめおかこころ塾を亀岡市の大本本部みろく会館3階ホールで開催し、多くの参加者がありました。

今月の講師当番はカトリック教会であり、その縁で「五つの赤い風船」元メンバーで劇団 MOMO 主宰、番組構成作家の長野たかし・あやこ氏が「豊かな心と「畏れ」」という講題で講演、及びコンサートを行いました。

「畏れ」とは、かしこまる、畏敬の念、恐れ敬うことであり、台風 15 号やその他自然災害の前には人間は無力であり、自然との共生が大切だと説かれました。そして宗教とは自然に感謝すること、自然を崇める

ことで、同じ考えが世界にもあることを説明。科学が 発達すると自然を人間の都合のいいように変化させて きた歴史に警鐘を鳴らしました。

その後は自身のプロテストソングを披露。あらゆる会場に呼ばれるが、プロテストソングばかりを歌わなければならない今の日本の状況はいけないと思うと吐露しながらも、いろんなものの考え方があって構わないが、ヘイトスピーチは言葉の暴力のためダメだと明言。ただ、日本が怖い国になってほしくない、そのために自分の意見は意見として言える自分でありたいと述べられました。

参加者は長野夫婦の歌声に酔いしれ、共に合唱しながら楽しい時間を過ごしました。

#### 敬老者健康長寿祈願式典 ~実行すると結果が出ると先輩会員さん~

今年の敬老者健康長寿祈願式典が9月15日、釈迦 牟尼仏様ご命日後に行われ、対象となる 128 名の敬 老者はじめ、それをお祝いする会員で法座席はいっぱ いになりました。

式典は読経供養後に3名の敬老者が「感謝の説法」 を行い、その後、佐藤教会長からお言葉がありました。

感謝の説法では今年93歳になる方が、77歳で仕 事を辞めた時、体は元気でどうしようかと思っていた が、これをきっかけに朝参りを始めたと述懐。現在も 続いていることを披露すると、会場からは拍手が沸き 起こりました。

入会して 60 年経った当時、幸せにならず、何故か と考えると「実行」していないと分かり、その後は一 つずつ一つずつ実行。実行すると結果が違ってくるこ とが分かってきたと。必ず仏さまがお手配を下さると 力強く大きな声で発表されました。



2人目の方は朝日生命の外交員だった頃、訪問した ご自宅が佼成会員で、即入会したことを話されました。 当時は毎月5体の先祖供養をするように言われ、また、 お手どり、ご供養の毎日だったと述懐し、これからは 迷惑をかけずに感謝の毎日を送りたいと思うと発表さ れました。

3人目の方は4歳の時に母親が亡くなり、祖父母に 育てて頂いたこと。50歳の時、妻が亡くなり、それ から佼成会に足を運ぶようになったと披露。65歳で 青嶋元教会長さんから、新道場の庭の手入れをお願い され、ご恩返しだと思い、毎日庭の水まきを始めたこ とを振り返りました。今は教会の看板作成に取り組ん でおり、今後も精魂込めて作ろうと思うと発表されま した。

佐藤教会長はお言葉のはじめに、会長先生のご名代 で早朝から石清水八幡宮の勅祭に最前列に座わらせて 頂いて参加したことを報告されました。その後、感謝 の説法にふれ、3名の方の平均年齢が90歳であると 述べると法座席からは大きな拍手に包まれました。3 名の共通していることとして、ご法を精進すればこの ようになると証明して下さっていることや、声が大き く、睡眠をしっかり、自身のペースで集中力が素晴ら しいことを挙げられました。

最後に、只々長生きするのではなく、しっかり精進 させて頂くことが肝心なことですと先輩方に倣って精 進していきたいと促されました。

### 奈良県宗教者フォーラム ~「和の心を現代に」~

9月27日、立正佼成会奈良教会において「第16 てそれぞれの立場から意見を述べました。 回奈良県宗教者フォーラム」が開催され、京都教会か ら5名が参加しました。

荒井正吾奈良県知事、森下豊橿原市長の挨拶に続き、 本会の庭野日鑛会長が登壇。「和の心を現代に」をテー 29 の団体から約130 名が参加しました。 マに、基調講演を行いました。

その後、夛川良俊興福寺執事長をコーディネーター の様子は、奈良テレビ として「鼎談」が行われ、樋口俊夫廣瀬神社宮司(神道 の夜のニュースで放 代表)、狭川普文東大時別当(仏教代表)、松本貢一立正 映されました。 佼成会近畿支教区長(新宗教代表)が、「和」の心につい

このフォーラムは、宗派や宗教を超えて共に学びあ い、和の精神が育まれた奈良から、多様性を尊重する メッセージを発信しようと 15 年前に始まり、今回は

尚、このフォーラム



### 日常生活の中の仏教用語 ~えっ?こんな言葉も仏教が語源?~

言葉のルーツを知って仏教に親しみを持ちましょう。

【開眼(かいげん)】

像や仏画に魂を入れることを意味する。「大仏開眼」 「開眼供養」などという。

魂が入らなければ、仏像として完成したことにはな

らないという。ここから、さとりを開く意味になり、 仏教では、仏像の眼を開けること。新しくできた仏やがて、物事の真髄を知ることを開眼といい、芸能界 や芸道の奥儀をさとることを開眼というようになっ

(「仏教早わかり百科~主婦と生活社~」から抜粋)

### 庭 野 日 敬 開 祖 法 話 集 ~開祖随感より~

#### 「万灯をともす人」

日蓮聖人のお逮夜には、勇ましい万灯行進が繰り広げられます。日蓮聖人は、「いまの日本国で最高の富者は、日蓮でありましょう。法華経に命を奉って、後の世まで名をとどめることができるのだから」とおっしゃられました。法華経に命を奉るとは、生死を自分が置かれたその場所に賭けることです。

法華経は「たとえ花園であれ、林中、僧房、在家信者の家、宮殿であれ、その場に塔を建てて供養しなさい。そこが道場なのです」と教えています。自分に与えられた仕事、自分に与えられたお役に、はじけるような喜びを持って打ち込んでいくと、その姿が周囲の人びとの心に灯をともしていくのです。これが、その場その場に塔を建てることだといえましょう。

自分がいま働いている職場、家庭、地域を修行の場として、人びとの心に灯をともしていくその喜びを、笛、カネ、太鼓を打ち鳴らし、マトイを打ち振って人びとに示していくのが、万灯行進です。二陣三陣となって、日蓮聖人に続く意気込みを示そうではありませんか。

#### 「身で読む」

親の恩はよく分かっているつもりでいても、自分で 子どもを持ってその大変さに音を上げて、初めて親の 恩に気づくというのが大方ではないでしょうか。

目の前にいる親でさえそうなのですから、ましてや、 仏さまが「みんな私の子どもなのですよ。私が守って あげているのですよ」とおっしゃられても、その思い の深さを本当に知るのは大変なことなのです。

日蓮聖人は、その仏さまのお言葉を、しっかり自分の耳に聞き取られたのです。「今此の三界(さんがい)は 皆是れ我が有(う)なり 其の中の衆生(しゅじょう)は 悉く是れ吾が子なり……我一人(われいちにん)のみ能(よ)く救護(くご)を為す」と、仏さまが自分に向かっておっしゃってくださるのを、はっ

きりと聞かれたのだと思うのです。

「法華経を人が読むとしても、口だけで読んだり、 言葉だけで読んでいるだけで、心に読んでいない。心 では読んでも体で読んでいない」と言われ、自分が受 けた大難も風の前の塵のようなものだとして、すべて の人を仏さまのみ手に導く柱となり、眼目となり、大 船となろうと誓願を立てられたのでした。

親の恩を本当に思い知ることが、仏さまの大恩を知ることにつながり、それが法華経実践の出発点になるのです。

#### 「作仏への感涙」

「日蓮はなかねどもなみだひまなし」というご聖人のお言葉があります。その日蓮聖人の涙は、法華経に遇うことができて必ず成仏できることを保証されたわが身のありがたさに打ち震える涙なのです。このお言葉は、佐渡に流されて再び生きて帰れるかどうか分からない日々の中で著わされた『諸法実相鈔』の中のお言葉です。

その流罪の地の生活は、刑場の近くに建てられた、 わずか畳二畳分の、壁はくずれ落ち、雪が降り積もっ て消えることがないというお堂での毎日でした。しか し、日蓮聖人はその流罪の大難さえも、法華経を身に 体して読ませてもらえるお手配と受け止められている のです。

この経に「如来の全身います」とあります。本当の 感激をもって法華経を読むと、仏さまが目の前で一語 一語、私たちに語りかけてくださるお声が聞こえてき ます。欲得にとらわれ、毀誉褒貶(きよほうへん)に 振り回されて些細なことで一喜一憂していた人生観が ガラリと変わってしまいます。

人間として生を享けることができた喜びに、じっと していられなくなってくるのです。この大歓喜を生じ てこそ人は作仏(さぶつ)できるのです。

(つづく)

#### 10~11月の主な教会行事

#### 10月1日(火) 9:00~ 朔日参り 開祖さま入寂会 9:00~ 4日(金) 脇祖さまご命日 10日(木) 9:00~ 13日(日) 9:00~ お会式・日蓮聖人遠忌法要 15日(火) 9:00~ 釈迦牟尼仏ご命日 9:00~ 11月1日(金) 朔日参り 4日(月) 9:00~ 開祖さまご命日 10日(日) 9:00~ 脇祖さまご命日 9:00~ 15 日(金) 開祖さま生誕会・ 釈迦牟尼仏ご命日

#### ●メッセージ

京都アニメーション制作の「ヴァイオレット・エヴァーガーデン 外伝 一永遠と自動手記人形一」という映画が MOVIX 京都において期間限定で公開されており、支援になればと思い、観に行って来ました。午後8時50分からのレイトショーで、行くまでは客席もまばらかな…と思っていましたが、ほぼ満席状態。多くが20~30歳代でしょうか、こういう方々がいつも観られているのだなと勉強になると共に、支援下さって頭の下がる思いでした。エンドロールでは続編も制作中とのこと。ぜひ、また観に行きたいと思います。